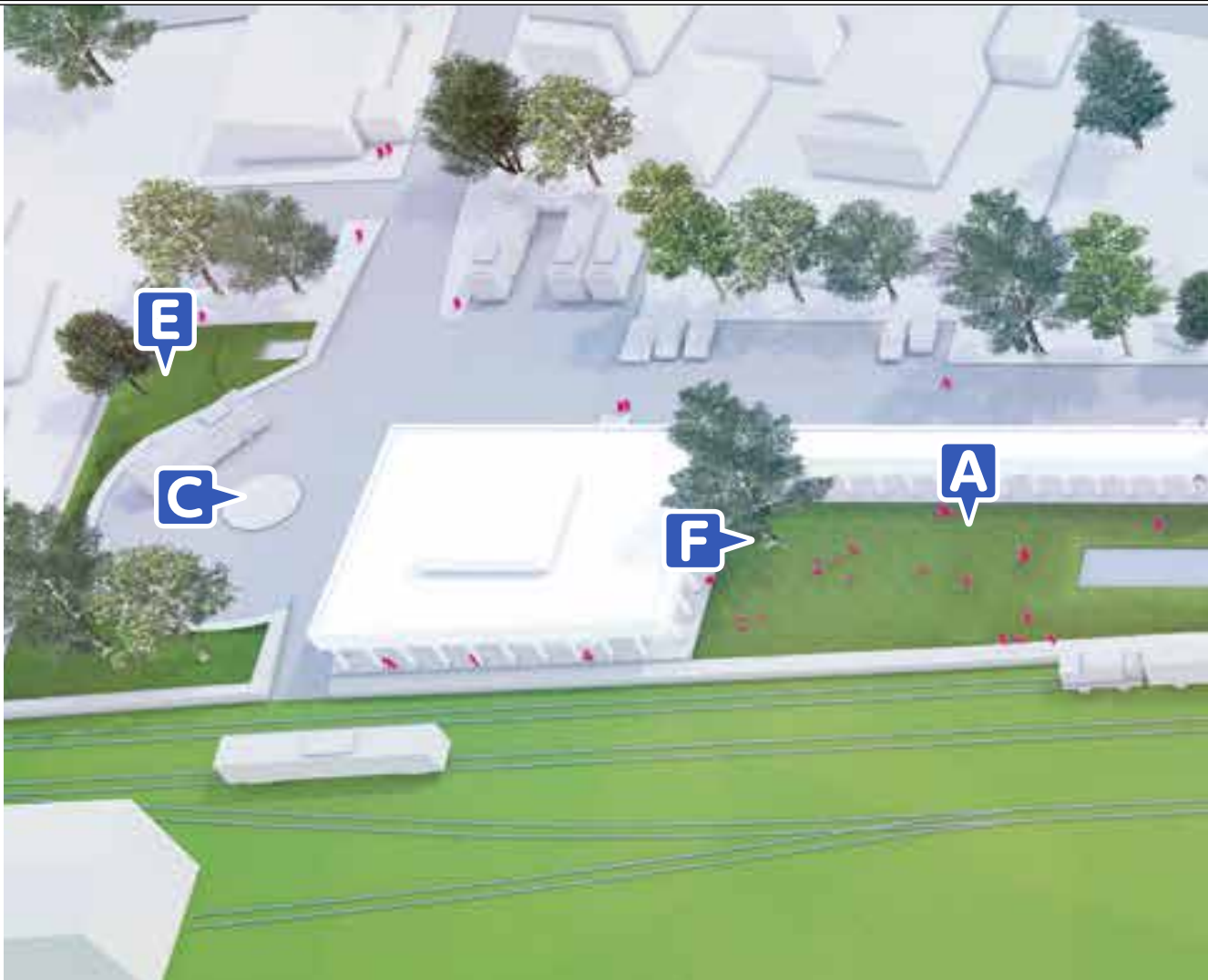
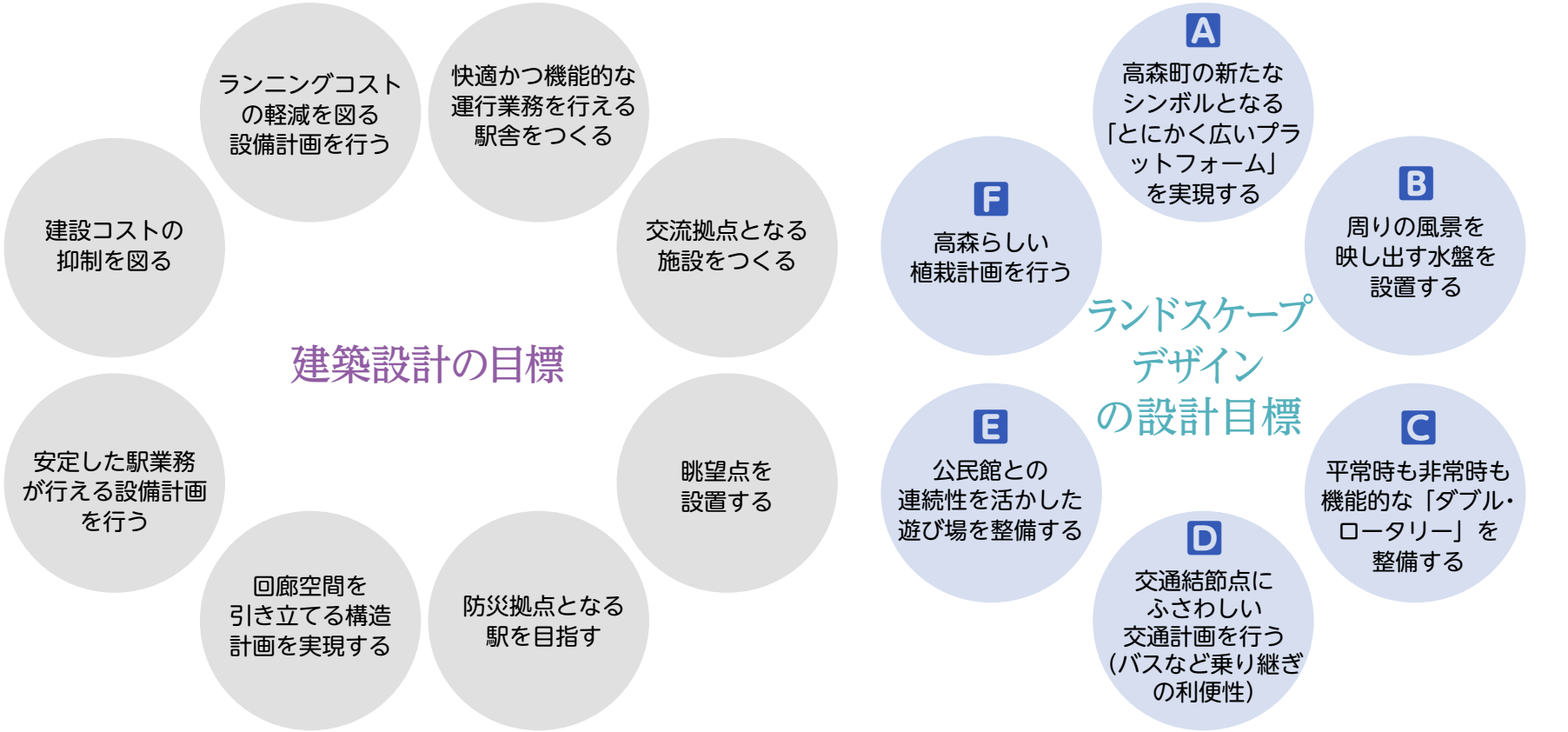




『高森町のシンボル』に

昨年9月に行われた公開プロポーザルでヌーブ社が提案したのはプラットフォームが長さ120メートル、奥行き16メートルもあるゆとりある設計。実際にはバスロータリーや駅業務との兼ね合いから長さは30メートルほど短くなり、86メートルほどの長さになる計画です。

その広いプラットフォームを含む公共空間の設計を、関係者と協議を重ねたり、新しい高森駅に適用可能な機能を有する類似施設の分析などを勘案したりして、各分野の設計指針を定めました。
ここでは、ランドスケープの設計と建築設計の目標をそれぞれ紹介します。



皆が集う交流の場に

12月には高森高校で高森町主催のワークショップが行われ、20人ほどの生徒が参加しました。

- シンボルツリー
- 子どもの遊び場
- 交流スペース

のほかに、駅メロ(鉄道駅で列車の発車合図として鳴る音楽)制作、観光大使の設置、部活後、汗を流せるシャワーなど「理想の駅」の実現に高校生ならではのユニークな提案が次々と出ました。

提案した高森高校生は、「若い人からお年寄りまで、いろいろな人が集える交流スペースが完成したら、どんどん活用したいと思う」と話しました。

魅力ある駅にするため

「プロポーザルで最も評価されたテーマ『とにかく広いプラットフォーム』の真ん中に列車を停めるという部分に一番こだわりました」と話すヌーブ社の太田代表。トロッコ列車はプラットフォームに、普通列車はひさしのある駅舎側に停車をさせる計画は、駅業務や設備の関係もあ



▲公表会で完成報告をする太田代表

リヌーブ社と南阿蘇鉄道株式会社とで協議を重ね、ようやく着地点を見出しました。
景色を遮るものが何もない広々としたプラットフォームから列車越しに沈む夕焼けを眺めるー南阿蘇鉄道の駅で唯一西向きプラットフォームを有する高森駅だからこそ実現できるハイライトシーン。太田さんはこの光景を「高森町の未来を考えると絶対に実現したいと思ったイメージです。南阿蘇鉄道は高森町のシンボルですから」と話し、思い入れの強さをうかがわせました。

また「新しい高森駅は鉄道の安全運行を第一に、まちづくりと観光拠点としての役割があるので、今後どのような体制で魅力的な駅前広場を作っていくか考える必要があります」と今後の課題にも触れました。

